

社 報



ハツリはなぜ？なくせない！

鴻池組 安全大会

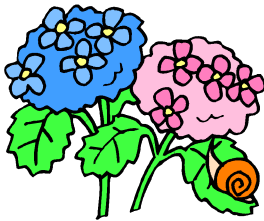
5月30日に鴻池組の安全大会が開かれました。

安全大会と言えば、表彰式がつきものですが、当日は当社もサムティ徳井町の現場で施工性の優秀さと、安全成績を評価いただき、法人の会社表彰をいただきました。

施工を担当いただきました野瀬部・大野組の皆さんには当社評価を高めていただきありがとうございます。

今後さらに、技能を研鑽して、「良い仕事」を追求していただきますように、お願いいたします。

感謝！



型枠工事の不具合と言えば、躯体修正、いわゆるハツリ・補修ということになります。

ハツリ・補修の主な原因は、建込精度不良であると思います。しかし、建込み精度不良がすべて型枠大工に責任があるかと言えばそうではありません。

建込み床レベルは左官屋さんの技量で決まりますが、この精度は型枠に影響するでしょうし、鉄筋の納まりが悪ければ型枠の精度に影響します。また、施工図が変更になり、加工をやり直した場合なども加工物の精度や強度を保てなくなり型枠の精度不良につながる場合もあります。十分な工程が確保できずに、突貫工程で型枠精度を十分に管理できなかった場合なども、ハツリ・補修の原因となるかもしれません。

誰もが、良い仕事をしたいと思っているけども、ハツリ・補修が発生します。型枠工事にはつきものであるから、ある程度はしょうがないと言う人もいますが、私はそうは思いたくありません。

それは、ハツリ・補修の発生度合

いが、非常に少ないからです。ひとつの建物で、型枠面積は非常に大きな面積となります。精度を要する所も様々で、ハツリ・補修がある現場でも、その型枠精度はかなり高く優秀であると思います。

多くの施工面積の中で、不具合が発生するのは、ほんの少しの部分です。その、ほんの少しの部分だけを精度不良から守れば、ハツリ・補修は無くなるのではないのでしょうか。

それには、職人さんの一人一人が自分の担当した場所の精度にコダワリを持ち、もし、万が一、精度不良が発生した場合には、徹底してその原因を探り、再発防止の手を打つことが大切です。そうすれば、必ず大工責任の躯体修正は無くせるはずで

す。当社全体での、躯体修正費用は年間で1,000万円以上の大きな額となります。先入観で型枠にハツリはツキモノと考えずに、徹底してハツリ・補修をなくすという意気込みを持つことです。

そうすれば、必ず躯体修正は無くなります。

社報はインターネットから <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

挨拶をする職人さんは仕事も素晴らしい！

職人さんには挨拶が苦手な人も多いようですが、やはり朝の挨拶や、パトロール時の挨拶など、挨拶は気持ちの良いものです。

先日、当社のプロロジスの現場に北梅組の社長が現場パトロールに訪問されたおり、当社の深見職長の対応が素晴らしいものであったと誉めて

いただきました。こうした評価は必ず周囲に伝わり、当社の評価を向上させてくれます。ありがたいことです。

工事が終わって、現場所長が、「よう頑張ってくれたな。次も頼むで！」と言ってもらえるように、できることはきっちりとやりましょう。

2006年 安全成績

現場災害 H18.1.1-H18.5.30	
休業災害	----- 1
不休災害	----- 2
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 3
交通災害 H18.1.1-H18.5.30	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0